

表 3 「C2. 交際相手や友人とのつきあいの中で、互いにきちんと話し合うことが大切だと思いますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	大切なことだと思い、いつも話し合うようになっている	1502	59.4	59.6
	大切なことだと思うが、現実には話し合いができないことが多い	974	38.5	38.7
	それほど大切なことではないと思う	44	1.7	1.7
	有効回答 合計	2520	99.6	100
無回答		10	.4	
全体の合計		2530	100	

表 4 C2 と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c2	大切なことだと思い、いつも話し合うようになっている	度数	697	805	1502
		行の%	46.4%	53.6%	100%
		列の%	58.9%	60.2%	59.6%
	大切なことだと思うが、現実には話し合いができないことが多い	度数	459	515	974
		行の%	47.1%	52.9%	100%
		列の%	38.8%	38.5%	38.7%
	それほど大切なことではないと思う	度数	27	17	44
		行の%	61.4%	38.6%	100%
		列の%	2.3%	1.3%	1.7%
合計	度数	1183	1337	2520	
	行の%	46.9%	53.1%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表5 「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思いますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	可能性はあると思うが、特殊な場合だと思う	844	33.4	33.6
	全ての場合ではないが、傷つける可能性は低くないと思う	1500	59.3	59.7
	かなりの確率で傷つけてしまうと思う	170	6.7	6.8
	有効回答 合計	2514	99.4	100
無回答		16	.6	
全体の合計		2530	100	

表6 C3と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c3	可能性はあると思うが、特殊な場合 だと思う	度数	426	418	844
		行の%	50.5%	49.5%	100%
		列の%	36.1%	31.4%	33.6%
	全ての場合ではないが、傷つける可 能性は低くないと思う	度数	666	834	1500
		行の%	44.4%	55.6%	100%
		列の%	56.4%	62.6%	59.7%
	かなりの確率で傷つけてしまうと思う	度数	89	81	170
		行の%	52.4%	47.6%	100%
		列の%	7.5%	6.1%	6.8%
合計	度数	1181	1333	2514	
	行の%	47.0%	53.0%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表7 「C4. 自分の身体を大切にしていますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	いつも大切にしている	1769	69.9	70.5
	傷つけてしまうことがたまにある	640	25.3	25.5
	よく傷つけてしまう	101	4.0	4.0
	有効回答 合計	2510	99.2	100
無回答		20	.8	
全体の合計		2530	100	

表8 C4 と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c4	いつも大切にしている	度数	784	985	1769
		行の%	44.3%	55.7%	100%
		列の%	66.6%	73.9%	70.5%
	傷つけてしまうことがたまにある	度数	329	311	640
		行の%	51.4%	48.6%	100%
		列の%	28.0%	23.3%	25.5%
	よく傷つけてしまう	度数	64	37	101
		行の%	63.4%	36.6%	100%
		列の%	5.4%	2.8%	4.0%
合計	度数	1177	1333	2510	
	行の%	46.9%	53.1%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 9 「C5. 交際相手や友人の身体を大切にすることはとても重要なことだと思いますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	とても重要なことだと思います, そうしている	2071	81.9	82.5
	とても重要なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	416	16.4	16.6
	それほど重要なことではないと思う	24	.9	1.0
	有効回答 合計	2511	99.2	100
無回答		19	.8	
全体の合計		2530	100	

表 10 C5 と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c5	とても重要なことだと思います, そうしている	度数	894	1177	2071
		行の%	43.2%	56.8%	100%
		列の%	75.7%	88.5%	82.5%
	とても重要なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	度数	270	146	416
		行の%	64.9%	35.1%	100%
		列の%	22.9%	11.0%	16.6%
	それほど重要なことではないと思う	度数	17	7	24
		行の%	70.8%	29.2%	100%
		列の%	1.4%	.5%	1.0%
合計	度数	1181	1330	2511	
	行の%	47.0%	53.0%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 11 「C6. 交際相手や友人との付き合いには、確固たる"けじめ"が大切だと思いますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	とても大切なことだと思い、そうしている	1295	51.2	51.7
	とても大切なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	1138	45.0	45.4
	いまどき、けじめはそれほど大切なことではないと思う	74	2.9	3.0
	有効回答 合計	2507	99.1	100
無回答		23	.9	
全体の合計		2530	100	

表 12 C6 と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c6	とても大切なことだと思い、そうしている	度数	586	709	1295
		行の%	45.3%	54.7%	100%
		列の%	49.7%	53.3%	51.7%
	とても大切なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	度数	548	590	1138
		行の%	48.2%	51.8%	100%
		列の%	46.5%	44.4%	45.4%
	いまどき、けじめはそれほど大切なことではないと思う	度数	44	30	74
		行の%	59.5%	40.5%	100%
		列の%	3.7%	2.3%	3.0%
合計	度数	1178	1329	2507	
	行の%	47.0%	53.0%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 13 「C7. 異性との交際には、周囲の目が気になると感じますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	とてもそう思う	797	31.5	31.9
	あまりそう思わない	1357	53.6	54.3
	まったくそうは思わない	343	13.6	13.7
	有効回答 合計	2497	98.7	100
無回答		33	1.3	
全体の合計		2530	100	

表 14 C7 と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c7	とてもそう思う	度数	380	417	797
		行の%	47.7%	52.3%	100%
		列の%	32.4%	31.5%	31.9%
	あまりそう思わない	度数	614	743	1357
		行の%	45.2%	54.8%	100%
		列の%	52.3%	56.1%	54.3%
	まったくそうは思わない	度数	179	164	343
		行の%	52.2%	47.8%	100%
		列の%	15.3%	12.4%	13.7%
合計	度数	1173	1324	2497	
	行の%	47.0%	53.0%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 15 「C8. 異性との交際には、親の目が気になると感じますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	とてもそう思う	877	34.7	35.1
	あまりそう思わない	1149	45.4	46.0
	まったくそうは思わない	473	18.7	18.9
	有効回答 合計	2499	98.8	100
無回答		31	1.2	
全体の合計		2530	100	

表 16 C8 と性別とのクロス集計表

			性交経験		合計
			男性	女性	
c8	とてもそう思う	度数	334	543	877
		行の%	38.1%	61.9%	100%
		列の%	28.5%	40.9%	35.1%
	あまりそう思わない	度数	548	601	1149
		行の%	47.7%	52.3%	100%
		列の%	46.8%	45.3%	46.0%
まったくそうは思わない	度数	289	184	473	
	行の%	61.1%	38.9%	100%	
	列の%	24.7%	13.9%	18.9%	
合計	度数	1171	1328	2499	
	行の%	46.9%	53.1%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 17 「C9. 友人や異性との交際においては、慎重に行動するほうですか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	慎重に行動するほうだ	1427	56.4	57.1
	あまり慎重に行動するほうではない	964	38.1	38.6
	まったく慎重ではないと思っている	108	4.3	4.3
	有効回答 合計	2499	98.8	100
無回答		31	1.2	
全体の合計		2530	100	

表 18 C9 と性別とのクロス集計表

		性交経験			
		男性	女性	合計	
c9	慎重に行動するほうだ	度数	632	795	1427
		行の%	44.3%	55.7%	100%
		列の%	54.0%	59.8%	57.1%
	あまり慎重に行動するほうではない	度数	471	493	964
		行の%	48.9%	51.1%	100%
		列の%	40.3%	37.1%	38.6%
	まったく慎重ではないと思っている	度数	67	41	108
		行の%	62.0%	38.0%	100%
		列の%	5.7%	3.1%	4.3%
合計	度数	1170	1329	2499	
	行の%	46.8%	53.2%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	



「健やか親子 21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標  
「性行動による性感染症等の身体的影響等について  
知識のある高校生の割合」に関する研究  
— 中学校における性教育による指標の変化 —

樋口 善之（福岡県立大学看護学部地域看護学講座）  
伊藤 真弓（釧路市立大楽毛中学校）  
星 光二（釧路市立大楽毛中学校）  
久保 清香（釧路市こども保健部）  
田丸 美和（釧路市こども保健部）  
小林 玲子（釧路市こども保健部）  
松浦 賢長（福岡県立大学看護学部地域看護学講座）  
山縣 然太郎（山梨大学医学部社会医学講座）

本研究は、中学2年生を対象とした性教育により、「健やか親子 21」の思春期分野における指標の一つである「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」がどのように変化するかに着目した追跡研究をおこなった。調査対象は、中学2年生であり、追跡データの得られた95名を分析対象とした。調査の結果、以下のことが明らかとなった。1) 指標に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」について、性教育プログラムの前後で有意に改善しており、また、プログラム終了後4ヶ月後においてもその効果は持続していた。2) 自己肯定感尺度の4つの下位領域得点のうち自律領域、過去受容領域得点は、調査した3時点間で変化していたが、それぞれの2時点間に有意差はみられなかった。

#### A. 研究目的

本研究は、中学校の2年生を対象とした性教育により、「健やか親子 21」の思春期分野における指標の一つである「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」がどのように変化するかに着目し、「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」の2つの項目を用いて追跡研究をおこなった。

#### B. 研究方法

北海道にある公立中学校の2年生を対象とした性教育プログラム開始時（平成20年4月）とプログラム終了時（平成20年7月）、プログラム終了後4ヶ月後（平成20年12月）の3時点において自記式質問紙調査を行った。授業プログラムの内容を資料1・2に示した。調査に用いた項目は3時点とも共通である（資料3）。ア）自己肯定感尺度（4下位尺度20項目）、イ）「健やか親子 21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性

感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」

倫理面への配慮:調査によって得られた情報は研究目的以外の使用はしないことを文書にて説明し、同意の得られた者にのみ調査を実施した。なお、本調査は追跡研究デザインを採用したため、姓名および誕生日から作成される個人IDを利用した。個人IDの生成方法は資料4に示した。

### C. 研究結果

分析対象の性別の内訳は、男子44名(46.3%)、女子48名(50.5%)、無回答3名(3.2%)であった。

#### プログラム開始時調査(1回目)

ア)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)

それぞれの下位領域の得点の平均値は、自律領域21.4(標準偏差4.0)、自信領域11.9(標準偏差2.5)、信頼領域16.5(標準偏差3.8)、過去受容領域18.3(標準偏差4.2)であった。本調査における自己肯定感尺度20項目のクロンバックのアルファ係数は0.784であった。各下位尺度得点間の相関係数は、自律-自信0.457、自律-信頼0.332、自律-過去受容0.084、自信-信頼0.189、自信-過去受容0.133、信頼-過去受容-0.029であった。

イ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」という設問に対して、そう

思う31名(32.6%)、どちらかといえばそう思う45名(47.4%)、どちらかといえばそう思わない13名(13.7%)、そう思わない4名(4.2%)、無回答2名(2.1%)であった。

「自分の体を大切にしているか」という設問に対して、そう思う37名(38.9%)、どちらかといえばそう思う39名(41.1%)、どちらかといえばそう思わない10名(10.5%)、そう思わない7名(7.4%)、無回答2名(2.1%)であった。

#### プログラム終了時調査(2回目)

ア)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)

それぞれの下位領域の得点の平均値は、自律領域21.8(標準偏差4.2)、自信領域12.3(標準偏差2.8)、信頼領域16.8(標準偏差3.5)、過去受容領域18.7(標準偏差4.3)であった。本調査における自己肯定感尺度20項目のクロンバックのアルファ係数は0.839であった。各下位尺度得点間の相関係数は、自律-自信0.489、自律-信頼0.430、自律-過去受容0.050、自信-信頼0.264、自信-過去受容0.122、信頼-過去受容0.165であった。

イ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」という設問に対して、そう思う52名(54.7%)、どちらかといえばそう思う29名(30.5%)、どちらかといえばそう思わない6名(6.3%)、そう思わない3名(3.2%)、無回答5名(5.3%)であった。

「自分の体を大切にしているか」という設問に対して、そう思う44名(46.3%)、どちらかといえばそう思う38名(40.0%)、どちらか

といえばそう思わない5名(5.3%)、そう思わない3名(3.2%)、無回答5名(5.3%)であった。

#### プログラム終了3ヶ月後調査(3回目)

##### ア)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)

それぞれの下位領域の得点の平均値は、自律領域21.4(標準偏差4.0)、自信領域11.9(標準偏差2.5)、信頼領域16.5(標準偏差3.8)、過去受容領域18.3(標準偏差4.2)であった。本調査における自己肯定感尺度20項目のクロンバックのアルファ係数は0.814であった。各下位尺度得点間の相関係数は、自律-自信0.511、自律-信頼0.310、自律-過去受容0.049、自信-信頼0.263、自信-過去受容0.094、信頼-過去受容0.075であった。

イ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」という設問に対して、そう思う37名(38.9%)、どちらかといえばそう思う43名(45.3%)、どちらかといえばそう思わない9名(9.5%)、そう思わない1名(1.1%)、無回答5名(5.3%)であった。

「自分の体を大切にしているか」という設問に対して、そう思う41名(43.2%)、どちらかといえばそう思う41名(43.2%)、どちらかといえばそう思わない71名(7.4%)、そう思わない1名(1.1%)、無回答5名(5.3%)であった。

#### 時点比較

##### ア)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)

自律得点について、3つの調査時点間の比

較をFriedman検定により行った。1回目から3回目までのデータを順序化し、その平均ランクを求めた結果、1回目1.94、2回目2.25、3回目1.80であった。平均ランクが高いほど、自己肯定感得点が高いことを意味する。3回の調査すべての回答した81名におけるFriedman検定の結果は有意であった( $\chi^2 = 9.810$ ,  $df = 2$ ,  $p = 0.007$ )。Bonferroni法による多重比較を行ったが、有意差はみられなかった。

自信得点について同様の検定を行った。平均ランクはそれぞれ、1回目1.94、2回目2.04、3回目2.02であった。3回の調査すべての回答した80名におけるFriedman検定の結果は有意ではなかった( $\chi^2 = 0.485$ ,  $df = 2$ ,  $p = 0.785$ )。

信頼得点について同様の検定を行った。平均ランクはそれぞれ、1回目1.90、2回目2.12、3回目1.98であった。3回の調査すべての回答した83名におけるFriedman検定の結果は有意ではなかった( $\chi^2 = 2.644$ ,  $df = 2$ ,  $p = 0.267$ )。

過去受容得点について同様の検定を行った。平均ランクはそれぞれ、1回目1.98、2回目2.19、3回目1.83であった。3回の調査すべての回答した85名におけるFriedman検定の結果は有意であった( $\chi^2 = 6.915$ ,  $df = 2$ ,  $p = 0.032$ )。Bonferroni法による多重比較を行ったが、有意差はみられなかった。

イ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」について、3時時点の比較をFriedman検定により行った。1回目から3

回目までのデータを順序化し、その平均ランクを求めた結果、1回目 2.25, 2回目 1.74, 3回目 2.01であった。平均ランクが高いほど、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に近い回答をする傾向があることを意味する。3回の調査すべての回答した85名におけるFriedman検定の結果は有意であった( $\chi^2 = 23.296$ ,  $df = 2$ ,  $p < 0.001$ )。Bonferroni法による多重比較を行った結果、2回目・3回目>1回目(2回目-1回目,  $z = -4.175$ ,  $p < 0.001$ )、(3回目-1回目,  $z = -2.494$ ,  $p = 0.01$ )という結果が得られた。

「自分の身体を大切にしているか」について、3時点間の比較をFriedman検定により行った。1回目から3回目までのデータを順序化し、その平均ランクを求めた結果、1回目 2.18, 2回目 1.89, 3回目 1.92であった。3回の調査すべての回答した85名におけるFriedman検定の結果は有意であった( $\chi^2 = 11.271$ ,  $df = 2$ ,  $p = 0.004$ )。Bonferroni法による多重比較を行った結果、2回目・3回目>1回目(2回目-1回目,  $z = -2.883$ ,  $p = 0.004$ )、(3回目-1回目,  $z = -2.665$ ,  $p = 0.08$ )という結果が得られた。

#### D. 考察

本研究では、「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の身体を大切にしているか」について、中学校における性教育プログラムの開始時、終了時、終了4ヶ月後の3時点を追跡調査し、その変化を調べた。その結果、2項目ともプログラム開始時に比べ、プログラム終了時、プログラム終了3ヶ月後ともに「そ

う思う」「どちらかといえばそう思う」との回答が増加する傾向があることが示された。この結果は、性教育プログラムによって、これらの項目が指標が改善することを意味し、また、プログラムの終了時点から3ヶ月が経過した時点においても、プログラム開始時点との比較において、その改善傾向がみられたことは、性教育プログラムにより持続的な指標化以前が可能であることを意味している。本指標は、本来、高校生(15~18歳)を想定した指標であるが、本研究においては調査対象を中学2年生に設定した。中学2年(13~14歳)においては、2次性徴の発現する時期であり、個人によっては活発な性行動がみられる時期でもある。性教育プログラムの実施において、改善指標を明確にすることは、プログラムの企画・立案およびその評価においても有効であると考えられる。本研究の成果は今後の思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における重要な知見である。

#### E. 結論

調査の結果、以下のことが明らかとなった。1) 指標に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の身体を大切にしているか」について、性教育プログラムの前後で有意に改善しており、また、プログラム終了後3ヶ月後においてもその効果は持続していた。2) 自己肯定感尺度の4つの下位領域得点のうち自律領域、過去受容領域得点は、調査した3時点間で変化していたが、それぞれの2時点間に有意さはみられなかった。

資料1：プログラムの概要 【実施時期：H20年 4月～H20年 7月】

始期	H16年度～
受講生	3年生×3クラス(各30名)
実施時期	H20年4～7月
担当教諭	音楽教諭(家庭科教諭不在のため、音楽教諭が兼務)
進行媒体	資料等

資料2：プログラムの内容

時間	プログラム内容	日程	物品・協力者
(開始前)	事前アンケート調査(1回目)		
1	○わたしたちの成長と家族 2人の出会い	4月第1週	
2	○幼児期をふり返ってみよう (1)生命の誕生	4月第2週	
3	(2)小さないのちを育てるために	4/16(水):3-1 4/17(木):3-2 4/18(金):3-3	
4	【体験学習】 ・妊婦擬似体験		
5	・育児体験 ・沐浴体験		
6	○幼児期の体について 幼児期をふり返る①	4月第4週	
7	幼児期をふり返る②	5月第2週	
8	○幼児期の運動機能の発達	5月第3週	
9	○幼児の基本的な 生活習慣の習得	5月第4週	
10	○おもちゃ作り①	6月第2週	

資料2：プログラムの内容（続き）

時間	プログラム内容	日程	物品・協力者
11	○おもちゃ作り②	6月第3週	
12	○保育園訪問	7/15(火):3-1	保育園 (大楽毛保育園)
13		7/22(火):3-2	
14		7/23(水):3-3	
15			
16	○性教育講座 「性について考えてみよう！」	7/22(火):3-1	保健師
17		7/22(火):3-2 7/23(水):3-3	
	事後アンケート調査(第2回)	7月	
	最終アンケート調査(第3回)	12月	

回数	新 回(クラス数)	3
	延 回(17回×3クラス)	54
人数	新 人(3クラス合計)	94
	延 人(受講総数) 総数×17回	1598

## 資料 3: 調査票

A. あなたの性別・年齢 1. 男 ( 歳) 2. 女 ( 歳)

B. あなたは次のことについてどう思いますか。それぞれあてはまるところに○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 私は、自主的に行動するほうだ	1	2	3	4	5
2. 私は、家族と一緒にいると落ち着く	1	2	3	4	5
3. 私は、“自分にはできない”と決めつけることが嫌いだ	1	2	3	4	5
4. 私は、自分なりの意見を持っている	1	2	3	4	5
5. 私は、常に自分の意見が正しいと思う	1	2	3	4	5
6. 私は、物事の結果を残念に思い続けるほうだ	1	2	3	4	5
7. 私は、家族の中での役割を理解している	1	2	3	4	5
8. 私は、自分の将来は自分ひとりで切り開くことができる	1	2	3	4	5
9. 私は、過去の決断を後悔することがある	1	2	3	4	5
10. 私は、家族との絆(きずな)を感じる	1	2	3	4	5
11. 私は、一度決めた目標はなかなか変えない	1	2	3	4	5
12. 私は、自分のことは自分ひとりで解決できるほうだ	1	2	3	4	5
13. 私は、自分のとった行動を後悔しやすいほうだ	1	2	3	4	5
14. 私は、どんな場所でも自分のやり方を通す	1	2	3	4	5
15. 私は、むやみに人に頼るより、できるだけ自分で頑張る	1	2	3	4	5
16. 私は、過去に“ああすればよかった”と思うことがよくある	1	2	3	4	5
17. 私は、どんな環境にあっても自分のベストを尽くす	1	2	3	4	5
18. 私は、どんな些細(ささい)なことでもよく落ち込む	1	2	3	4	5
19. 私は、周囲から理解されている	1	2	3	4	5
20. 私は、自分の親に似ていると言われるとうれしく思う	1	2	3	4	5





「健やか親子 21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標  
「性行動による性感染症等の身体的影響等について  
知識のある高校生の割合」に関する研究  
-高等専門学校における性教育による指標の変化-

樋口 善之（福岡県立大学看護学部地域看護学講座）  
館岡 正樹（釧路工業高等専門学校）  
三島 利紀（釧路工業高等専門学校）  
久保 清香（釧路市こども保健部）  
田丸 美和（釧路市こども保健部）  
小林 玲子（釧路市こども保健部）  
松浦 賢長（福岡県立大学看護学部地域看護学講座）  
山縣 然太郎（山梨大学医学部社会医学講座）

本研究は、高等専門学校の1年生を対象とした性教育により、「健やか親子 21」の思春期分野における指標の一つである「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」がどのように変化するかに着目した追跡研究をおこなった。調査対象は、高等専門学校1年生であり、追跡データの得られた214名を分析対象とした。調査の結果、以下のことが明らかとなった。1) 指標に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」について、授業プログラムの前後で変化しており、「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」は有意に増加している傾向を示した。2) 自己肯定感尺度の4つの下位領域得点のうち信頼領域得点は、授業プログラムの前後で有意に高くなっていた。

#### A. 研究目的

本研究は、高等専門学校の1年生を対象とした性教育により、「健やか親子 21」の思春期分野における指標の一つである「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」がどのように変化するかに着目し、「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」の2つの項目を用いて追跡研究をおこなった。

#### B. 研究方法

北海道にある工業高等専門学校の1年生を対象とした性教育の授業の開始時（平成20年4月）と授業の終了時（平成20年10月）の2時点において自記式質問紙調査を行った。授業プログラムの内容を資料1・2に示した。授業開始時（1回目）の調査に用いた質問項目は、ア）これまでに受けた性教育の経験と高等専門学校における性教育、イ）中学生、高校生がセックスをすることについての考え、ウ）「健やか親子 21」思春期の保健対策の強化と健康

教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」、エ)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)、であった(資料3)。授業終了時(2回目)の調査に用いた質問項目は、オ)高専での性教育について、カ)中学生、高校生がセックスをすることについての考え(1回目調査時のイ)と同項目)、キ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」(1回目調査時のウ)と同項目)、ク)自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)(1回目調査時のエ)と同項目)であった(資料4)。

倫理面への配慮:調査によって得られた情報は研究目的以外の使用はしないことを文書にて説明し、同意の得られた者にのみ調査を実施した。なお、本調査は追跡研究デザインを採用したため、姓名および出生日から作成される個人IDを利用した。個人IDの生成方法は資料5に示した。

### C. 研究結果

分析対象の性別の内訳は、男子191名(89.3%)、女子19名(8.9%)、無回答4名(1.9%)であった。

#### 授業開始時調査(1回目)

ア)これまでに受けた性教育の経験と高等専門学校における性教育

「あなたは今までに、学校(小・中)で性

教育(性に関する内容の授業)を受けたことがありますか」という設問に対して、ある206名(96.3%)、ない3名(1.4%)、無回答5名(2.3%)であった。この設問に対し、「はい」と回答した206名のみを対象とした「今までの性教育で教わった事柄で、あなたにとって心に残っていることはありますか」という設問に対して、ある32名(15.5%)、どちらかといえばある80名(38.8%)、どちらかといえばない70名(34.0%)、ない24名(11.7%)であった。214名全員を対象とした「高等専門学校での性に関する授業に期待していることはありますか」という設問に対して、ある14名(6.7%)、どちらかといえばある77名(37.0%)、どちらかといえばない91名(43.8%)、ない26名(12.1%)、無回答6名(2.8%)であった。

イ)中学生、高校生がセックスをすることについての考え

「中学生がセックスをすることについてどう思いますか」という設問に対し、かまわないと思う13名(6.0%)、どちらかといえばかまわないと思う17名(7.9%)、どちらかといえばよくないと思う63名(29.4%)、よくないと思う72名(33.6%)、本人の自由だと思う44名(20.6%)、無回答5名(2.3%)であった。「高校生がセックスをすることについてどう思いますか」という設問にたいして、かまわないと思う29名(13.5%)、どちらかといえばかまわないと思う39名(18.2%)、どちらかといえばよくないと思う32名(14.9%)、よくないと思う27名(12.6%)、本人の自由だと思う83名(38.7%)、無回答4名(1.8%)であった。

ウ)「健やか親子21」思春期の保健対策の強

化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する2項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」という設問に対して、そう思う70名(32.7%)、どちらかといえばそう思う111名(51.8%)、どちらかといえばそう思わない26名(12.1%)、そう思わない3名(1.4%)、無回答4名(1.8%)であった。「自分の体を大切にしているか」という設問に対して、そう思う39名(18.2%)、どちらかといえばそう思う124名(57.9%)、どちらかといえばそう思わない41名(19.1%)、そう思わない6名(2.8%)、無回答4名(1.8%)であった。

#### エ) 自己肯定感尺度(4下位尺度20項目)

それぞれの下位領域の得点の平均値は、自律領域21.1(標準偏差4.1)、自信領域12.3(標準偏差2.7)、信頼領域16.5(標準偏差3.5)、過去受容領域11.8(標準偏差4.3)であった。本調査における自己肯定感尺度20項目のクロンバックのアルファ係数は0.774であった。各下位尺度得点間の相関係数は、自律-自信0.513、自律-信頼0.246、自律-過去受容0.203、自信-信頼0.069、自信-過去受容0.158、信頼-過去受容-0.041であった。

#### 授業終了時調査(2回目)

##### オ) 高専での性教育について

「あなたは高等専門学校での性教育の講義についてどう思っていますか」という設問に対して、必要である131名(61.2%)、どちらかといえば必要である73名(34.1%)、どちらかといえば必要ない8名(3.7%)、必要ない1名(0.5%)、無回答1名(0.5%)であった。「あなたは高等専門学校での性教育の実習についてどう思っていますか」という設問に対し

て、必要である55名(25.7%)、どちらかといえば必要である113名(52.8%)、どちらかといえば必要ない37名(17.3%)、必要ない6名(2.8%)、無回答3名(1.4%)であった。

「高等専門学校の性教育で教わった事柄で、あなたの心に残っていることはありますか」という設問に対して、ある84名(39.3%)、どちらかといえばある108名(50.5%)、どちらかといえばない13名(6.1%)、ない7名(3.3%)、無回答2名(0.9%)であった。

##### カ) 中学生、高校生がセックスをすることについての考え

「中学生がセックスをすることについてどう思いますか」という設問に対し、かまわないと思う8名(3.7%)、どちらかといえばかまわないと思う28名(13.1%)、どちらかといえばよくないと思う56名(26.2%)、よくないと思う91名(42.5%)、本人の自由だと思う30名(14.0%)、無回答1名(0.5%)であった。第1回目調査時との変化について、McNemar-Bowker検定を行った結果、有意な変化がみられた( $\chi^2=20.254$ ,  $p=0.027$ )。

「高校生がセックスをすることについてどう思いますか」という設問にたいして、かまわないと思う23名(10.7%)、どちらかといえばかまわないと思う55名(25.9%)、どちらかといえばよくないと思う49名(22.9%)、よくないと思う36名(16.8%)、本人の自由だと思う49名(22.9%)、無回答2名(0.9%)であった。第1回目調査時との変化について、McNemar-Bowker検定を行った結果、有意な変化がみられた( $\chi^2=24.393$ ,  $p=0.004$ )。

キ) 「健やか親子21」思春期の保健対策の強化と健康教育の推進における指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識の

ある高校生の割合」に関する 2 項目

「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」という設問に対して、そう思う 113 名 (52.8%)、どちらかといえばそう思う 94 名 (43.9%)、どちらかといえばそう思わない 6 名 (2.8%)、そう思わない 0 名 (0%)、無回答 1 名 (0.5%) であった。第 1 回目調査時との変化について、Wilcoxon の符号付き順位検定を行った結果、有意差がみられた ( $z=-5.772$ ,  $p<0.001$ )。

「自分の体を大切にしているか」という設問に対して、そう思う 56 名 (26.2%)、どちらかといえばそう思う 115 名 (53.7%)、どちらかといえばそう思わない 35 名 (16.4%)、そう思わない 7 名 (3.3%)、無回答 1 名 (0.5%) であった。第 1 回目調査時との変化について、Wilcoxon の符号付き順位検定を行った結果、有意差がみられた ( $z=-2.023$ ,  $p=0.043$ )。

#### ク) 自己肯定感尺度 (4 下位尺度 20 項目)

それぞれの下位領域の得点の平均値は、自律領域 21.2 (標準偏差 4.1)、自信領域 12.5 (標準偏差 2.8)、信頼領域 17.1 (標準偏差 3.6)、過去受容領域 11.3 (標準偏差 4.5) であった。本調査における自己肯定感尺度 20 項目のクロンバックのアルファ係数は 0.741 であった。各下位尺度得点間の相関係数は、自律-自信 0.534、自律-信頼 0.339、自律-過去受容 0.182、自信-信頼 0.112、自信-過去受容 0.091、信頼-過去受容 -0.111 であった。第 1 回目調査時との変化について、Wilcoxon の符号付き順位検定をそれぞれの下位領域得点において行った結果、信頼領域得点においてのみ有意差がみられた ( $z=-4.148$ ,  $p<0.001$ )。

調査の結果、以下のことが明らかとなった。

1) 指標に関する 2 項目「性行動は相手の心や体を傷つける可能性があると思うか」「自分の体を大切にしているか」について、授業プログラムの前後で変化しており、「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」は有意に増加している傾向を示した。2) 自己肯定感尺度の 4 つの下位領域得点のうち信頼領域得点は、授業プログラムの前後で有意に高くなっていた。

## D. 結論